

仙臺帶余 五十九驛  
戸千七百十三  
土産 精好絹 古  
細紙布 鉄煙管  
火箸 古

土産 陶器



と  
う  
ほ  
く

街道  
今  
議

東北の街道から夢・未来を語る  
歴史を学び  
観光と地域づくりを考え  
持続可能な東北へ

# 第4回交流会 仙台・宮城大会

日時 平成20年11月21日金 22日土

会場 仙台市福祉プラザ ふれあいホール 他  
仙台市青葉区五橋2丁目12-2

## 報告書



# とうほく街道会議 第4回交流会 仙台・宮城大会 プログラム

街道パネル展

展示ロビー

11/21(金) 12:00~16:00  
東北各地の街道や交流連携団体の  
活動紹介パネルを展示

11/21  
金

## I 交流会 13:00~16:30

ふれあいホール、他

### 1. オープニングセレモニー

黙祷

「平成20年岩手・宮城内陸地震」の犠牲者の方々のご冥福をお祈りしました。

オープニング

栗原地方の民謡 文字甚句

歌：加藤節子さん 三味線：数又利夫さんほか数又会の皆さん  
(栗原市の震災復興チャリティー出演。参加者の皆様の義援金を募りました。)

主催者挨拶

とうほく街道会議 会長

工藤 雅樹 氏

来賓挨拶

国土交通省 東北地方整備局 道路部長 三浦 真紀 氏(代読 道路調査官 田沢 次雄 氏)

NPO法人全国街道交流会議 代表理事 田中 孝治 氏

次回開催地挨拶

あおもりかいどう会議会長

田中 寿明 氏

### 2. 基調鼎談 13:30~14:45

『東北の視点から 歴史を学び 未来へ活かす』

鼎談者

工藤 雅樹氏(とうほく街道会議会長・仙台市)

大山 真由美氏(みやぎ街道交流会副会長・宮城県多賀城市)

安藤 美樹氏(NPO法人奥州街道会議事務局長・盛岡市)

### 3. 分科会 15:00~16:30

第1分科会 パネルディスカッション『観光と地域づくりのために 何をなすべきか』

コーディネーター

宮原 育子氏(宮城大学事業構想学部教授・仙台市)

パネリスト

吉村 徳男氏(大内宿結いの会顧問・福島県下郷町)

佐藤 勇氏(栗原市長・宮城県栗原市)

山口 ステファン氏((株)トラベル東北 代表取締役・山形県最上町)

大村 宏平氏(いわてグリーン・ツーリズムサポートセンター長・盛岡市)

第2分科会 車座座談会『街道歩き楽しさ いま街道歩きがおもしろい 街道歩きに興味のある人集れ!』

世話人

鏡 啓記氏(羽州街道交流会代表幹事・秋田市)

街道旅人

長井 克成氏(歩人(あるきんど)・北九州市)

三好 薔薇氏(東京都)

藤原 優太郎氏(とうほく街道会議副会長・秋田市)

## II 街道談義 18:00~19:30

「ごっつお十八番」/県庁18F

宮城県栗原地方の食材を中心とした郷土料理や宮城の地酒による交流会

11/22  
土

## 街道探訪会

### A. 芭蕉の「おくの細道」コース(多賀城~塩竈~松島)

JR国府多賀城駅(東北歴史博物館側駅前広場)集合(9:00)→多賀城跡(多賀城碑、政庁跡)→  
塩竈(御釜神社、亀井邸又は七曲坂、塩竈神社・文治の灯笼)→昼食(塩竈神社・大講堂)→松島(松島四大観・扇谷・雄島)→  
JR松島海岸駅解散(15:00)

※多賀城~塩竈~松島はバス移動、全区間徒歩 約7km

案内等協力団体：多賀城市史跡案内サークル、NPO法人みなとしほかま、おくの細道松島海道、多賀城市、塩竈市、松島町、塩釜商工会議所

### B. 仙台市内の奥州街道コース(河原町~芭蕉の辻)

「ツインタワー広瀬川・春圃」前広場集合(9:00)→河原町→南材木町→穀町→南鍛冶町→荒町→田町→上染師町→  
北目町(昼食)→柳町→芭蕉の辻 解散(14:00)

※全区間徒歩 約4km

案内等協力団体：まち遺産ネット仙台



とうほく街道会議会長  
工藤雅樹

今日おいでのみなさまは、きっと旅が大好きな方々であろうと思います。

旅は、赴いた先それぞれの地域の良さを学び取り、お土産に地元を持ち帰ると、それまで見えなかった地元のことが見えてくる。また、訪れた先の良さを再認識することで、自分たちの地域だけが素晴らしく、他所はたいしたことがないなどという考えを、思い直させる効果もあります。

とうほく街道会議は、平成16年10月に山形県上山市で開催された第3回全国街道交流会議羽州街道上山大会のあとを受けて、平成17年3月30日に発足しました。上山大会で、東北各地で歴史を学び、地域づくりにかかわる人たちが一同に会したことをきっかけに、地域づくりや歴史・文化を学ぶことを通して、いろいろな方々の交流連携ネットワークの形成に役立ちたいと会をたちあげ活動を続けてきました。

その活動の一環として、毎年各地持ち回りで交流会を実施し、上山大会以後、これまで秋田、福島、岩手で交流会を開催してきました。第4回目がこの仙台・宮城大会になります。仙台・宮城大会のテーマは、「東北の街道から夢・未来を語る」「歴史を学び観光と地域づくりを考え持続可能な東北へ」です。

このメインテーマのもとに、「観光と地域づくりを両立させるためには何をなすべきか」、「今、街道歩きがおもしろい。街道歩きに興味のある人あつまれ」といったテーマ・内容で、いろんな方からご意見をうかがいます。

そして、今回の第4回交流大会で観光や地域づくり、あるいは地域の歴史や文化とともに学ぶなかで、みなさまに何らかのお役にたてれば、それに勝る幸いはありません。



## 基調鼎談

# 東北の視点から 歴史を学び 未来へ活かす

蝦夷や平泉、大陸との交流など、東北の古代・中世の文化は多様性にとんでいます。その東北の文化は、西日本を中心とした日本文化の枠におさまらない、独自の進化を遂げてきました。北海道の歴史と比較することにより、新しい解釈が生まれた東北の歴史観を、親子孫3代の会話という形式で読み解き、東北文化のすばらしさを再認識していただくというものです。

大山 真由美(工藤家の嫁・美樹の母役)・みやぎ街道交流会副会長

本日の基調鼎談は、「東北の視点から歴史を学び未来へ活かす」をテーマに、お義父さんを工藤先生、私が九州・福岡から嫁いだ工藤家の嫁。安藤美樹さんが私の娘、工藤先生の孫の設定です。私は九州・福岡の出身で、東北に嫁に来る前は、東北といえば、石川啄木の「なまり懐かし停車場の……」のように、出稼ぎ、異国、田舎のイメージが強かったのですが、東北の人は結束力も強く、優しくてあたたかい人柄だとわかるまで、時間がかかりました。

私のなかでは、福岡は九州の玄関口、西の守りの大宰府がある西日本の中心であり、それは日本の中心というイメージで、東日本、東北に対して優越感を持っていました。でも、お義父さんからいろいろ教わって蝦夷、アイヌ文化など、すこしずつわかってきたんです。

安藤 美樹(工藤家の孫役)・NPO法人奥州街道会議事務局長

東北に住んでいるものの歴史を知らず、おじいちゃんに歴史をいろいろ教えてもらうのが私の役です。岩手生まれの岩手育ちですが、あまり地域の歴史は知りませんでした。街道に関わるようになってからは各地に行く機会が増え、行った先で地元の人しか知らないことを教えていただき、地域それぞれに歴史があることを知るようになりました。

そこに住んでいる人たちの生活やおいしい食べ物などを知ること、東北ってすごいいいところ、楽しい地域だなと感じるようになり、地域の歴史をもっと大きな歴史の中でみてみたいと思うようになったのが歴史に興味を持ち始めたきっかけです。

工藤 雅樹(お義父さん・おじいちゃん役)・とうほく街道会議会長

私が学生時代に習ったのは、たとえば、青森県弘前平野で西暦紀元前の水田の跡が見つかるなど、東北では北のほうも含めて早くから稲作が行われていた、また蝦夷のリーダー・アテルイの里・奥州市水沢区の近くに立派な前方後円墳があることなどからわかるように、東北地方の古代文化は日本文化の枠の中におさまるといっていいです。この説は、東北古代住民である蝦夷は日本人の範疇に含まれるという蝦夷日本人説でもあったのです。私はこのような雰囲気の中で育ったので、東北の文化、古代蝦夷を研究する上で、北海道に関心を寄せたりアイヌ文化を学んだりすることはなかったのです。

東北地方の文化が西日本中心の日本文化の枠におさまるといふ説は、東北地方の文化のある部分に、西日本から発する光源をあてて見えたものを強調しています。しかし東北の文化的要素のなかには、西日本ではなく北海道方面など北から当てた光で、初めて見えてくるものもあったのではないかと、今では思えます。また、蝦夷日本人説には稲作を持たない文化を劣ったものとする差別の論理を内包していたようにも思います。

安藤

昔は関心を持っていなかったアイヌ文化を学ぼうと思ったきっかけは何ですか。

工藤

昭和54年、宮城学院女子大学に赴任して、学生を研修旅行で北海道に連れて行くようになってからです。北海道の史跡やアイヌ文化に接した当初から、アイヌ文化への違和感はありませんでした。アイヌの人たちの暮らしぶりや考え方などに、東北の人たちと共通するところが多かったことを感じていたからです。それは、東北、特に北のほうにアイヌ語に起源がある地名と同形の地名がたくさんあったこととも関係していますでしょう、また、秋田・岩手県境の山村で、アイヌ文化に違和感のない仕事、生活を見て幼少期を過ごしたこととも関連していると思っています。

大山

北海道と東北の交流があった時代の自然環境はどうだったのでしょうか。

工藤

北海道と東北は異域ではなく、北海道も縄文文化の広がりの中におさまる地域であることは、東北地方の北部と北海道南部地域で出土した縄文土器を見るとよくわかります。土器の形や模様がとても似ているからです。

樹木でいいますと、トドマツのような針葉樹が多い地域は北海道でも一部で、かなりの部分は東北地方と同じように落葉広葉樹林帯です。秋になると紅葉し、落葉するという光景が東北・北海道に共通して見られます。そして落葉広葉樹があるところには山菜やキノコ、鮭、など豊富な食糧資源があります。

アイヌ文化の担い手は北海道縄文人の子孫です。北海道縄



工藤 雅樹氏



大山 真由美氏



安藤 美樹氏



文人と東北縄文人の文化はかなり共通する部分がありますので、北海道と東北の文化は後までもよく似た部分が少なくないのです。ただし、そういう部分は、東北と西日本に共通する歴史や文化の要素だけを拾い上げるだけでは見えてこないもので、実際に北海道を旅し、旅先でできた友人にいろいろ教えてもらうなかで、これまで見ようとしなかった部分が見えてくるということです。

#### 安藤

文化の発達には気候も大きく影響していたんですね。しかし、その後の東北と北海道の文化の発達は同じではなかったというのが、おじいちゃんの考えですよ。

#### 工藤

そう。東北と北海道の歴史は、同じ縄文文化の担い手だった子孫が歩んだ歴史ですが、その歩んだ道は異なっています。けれども、北海道と東北はお隣同士ですから、古くから、お互いに密接な交流・交渉がありました。

アイヌ語で本州の人たちを「シャモ」といいますが、正しくは「シサム」で、「シ」は「主な」、「サム」は「お隣」「傍ら」の意味ですから、「シサム」は「主なる隣人」になります。良き隣人であったかどうかは大いに問題のあるところではありますが、アイヌの人にとっての主なる隣人は、本州の人でした。隣人どうしに交流・交渉があるのは当たり前です。平安時代の北海道の遺跡からは、本州から北海道にもたらされた鉄の刀や鎌、鍬が見つかっています。これらと引きかえにアシカ、アザラシ、鷲の羽根などが北海道の特産品として本州にもたらされたようです。

平泉の藤原基衡が毛越寺のご本尊を京都の雲慶につくらせた時には、アザラシの皮60枚余りをお礼として渡したそうです。また、撰閤家の荘園の年貢として、アザラシの皮5枚を入れましょうかと、荘園を管理していた基衡から撰閤家に申し出たそうです。このようにことから、藤原氏の視野が北海道だけではなく、サハリン、アム-

ル川の河口方面まで及んでいた可能性があり、北の産物が平泉に集まるシステムができあがっていました。それが、平泉藤原氏の栄華をもたらしていたといえるかも知れません。

#### 大山

つくづく平泉藤原氏の力には驚かされます。お義父さんは中国によく行きますが、中国・シルクロードの国と奥州王・平泉藤原氏の政権との共通点はなんでしょう。

#### 工藤

井上靖さんの小説『敦煌』でもおなじみの敦煌を例にしてお話をします。漢代に敦煌が長安の直轄支配下に入りますと、地方長官が長安から派遣されてその地域を治めることになります。しかし、長安の中央政権の方が敦煌に及ばない時代もありました。そうになると、敦煌の地元の豪族が自立します。唐の時代の終りごろで、この自立するときに、長安に使いを派遣して、自らを長安の地方長官に任命してもらおうのですが、その肩書きをもらう代わりに、敦煌に集まるシルクロード地域の特産物を貢物として贈るわけです。平泉藤原氏が北方の産物を都に貢物として30年も贈り続けていたということと同じことです。

平泉は辺境の地域に生まれた地方政権と捉えることができるのではないかと。敦煌と平泉は似ているのではないかと。シルクロードを旅しながら、そんな考えを頭の中でまとめていきました。東北や北海道、シルクロードなど各地の旅でいろんな人と知り合って、酒を酌み交わし耳にして知りえたことで、東北や平泉にかかわる新しい見方ができるようになったと考えています。

#### 大山

本日はありがとうございました。北海道・東北の文化の素晴らしさを再認識できる場でもあったと思います。



## 第1分科会

# 観光と地域づくりのために 何をなすべきか

時代の変化とともに観光も大きな曲がり角にきています。都会発の観光から地元発の観光への転換が叫ばれる昨今、自分たちの地域の宝を探し出し、独自の光をあてようと努力している人たちがいます。ここでは地域に密着したスタンスで観光と地域づくりに奔走する人たちに集まっていただき、地域ならではの宝を見つけて出す方法を探ってみました。

コーディネーター

宮原 育子・宮城大学構想学部教授

今日の第1分科会は「観光と地域づくりのために何をなすべきか」というテーマでお話をさせていただきます。まずは、街道を地域の宝物として観光や交流に活かしていく活動を続けてこられたみなさん。活動が地域経済にもっと成果を残すためにはどうすべきか、方向性、課題などお話しください。

佐藤 勇・宮城県栗原市長

宮城三陸地震で亡くなられた麦屋弥生さんをアドバイザー・コーディネーターに、栗原の地域づくりを進めてきました。麦屋さんは、栗原の小さく輝かせたい地域資源というのを、農業を基本に据えて市内から300箇所探してきました。街道やお祭りなど、その小さなひとつひとつを「磨き隊」・「輝かせ隊」というのを作って、磨いて表に出す。それが観光だと教えてもらい、NPOを立ち上げ町案内やガイドを作るところからはじめました。そして、成果を「くりはら田園観光都市創造事業調査研究報告書」としてまとめました。

吉村 徳男・大内宿結いの会顧問

世帯数48戸、人口180人弱の村に年間120万人もの観光客がいらしてくれるようになりました。ただ、たくさんの観光客が来てくれることで何でも売れてしまう。村の産品より村以外の産品がはるかに売れるのは問題です。また、国道289号甲子道路トンネルが開通しても交通渋滞が一向に解消されない問題もあり、地域連携でこうした問題を解消できないか取り組んでいるところです。私たちは、私たちの生活のステージにどうやって観光客に上がってもらおうかを課題に取り組んでいます。

山口 ステファン・(株)トラベル東北代表取締役

義経の足跡、芭蕉の足跡、戦国時代の遺跡、縄文時代の遺跡、温泉に山にヤマメにアユ……。ネタ(観光資源)は僕も仲間も自信がありますが、問題は取組がバラバラなことです。登山を案内する人たち、峡谷ツアーする人たちなどさまざまな団体を統一し、いろいろな体験ツアーや歴史ツアーを統一した取組でできるようにしたいものです。

大村 宏平・いわてグリーン・ツーリズムサポートセンター長

グリーン・ツーリズムもニューツーリズムも、地域の人や行政と連携して情報発信をしていくことが大事です。また、地域のコーディネーター役を担う人づくりも大切です。

東北の場合、自然が豊かで、人が優しい、いろんな体験活動ができるなどから、グリーン・ツーリズムでは教育旅行の受け入れが多いのですが、これからは農泊をテーマにした体験活動が増えることが予想され、こうした観光はますます発展すると考えられます。

宮原

それぞれの課題について、考えている具体的な解決策を教えてください。

吉村

大内宿の保存の根幹は、村の48戸の人たちが自活できることです。その取組で大切なのは地域コミュニティをしっかりしていくことで、例えば密集家屋の大内宿の防火活動では、子供たちや火消し組が火の用心をやり消防団の手助けをし、村の行事等も子どもからお年寄りまでが役割分担をして村を守る取り組みをしています。また、面倒くさくてやらなくなったことをやるのが人々を繋げるので、屋根葺きの茅刈なども村の全戸から1戸1人出してもらい、村全体で行い共同体意識を高揚させています。

大村

旅の形は従来の団体型から個・グループを対象としたもの、テーマ型に変わっています。このようななかで増大したニーズをどううまく捉えてどう商品化し売るのが、その仕組みをつくる必要があります。私もいわてNPOセンターも、地域にもともとある在る材に、さらに財に変える仕組みをつくろうと、「地域ツーリズムサトハク」サイトを立ち上げる予定です。そして、地域資源を発掘、人材を発掘する地域ツーリズムを構築し、全国の思いを同じくする人たちと連携して発展させていくことを考えています。

山口

月10万もあれば兼業農家は農業を続けられるが、今はほとんどなくなった農業以外の収入を、各農家に僕らの仕組みでどれくらい稼がせることができるかが大きな課題です。また、最上で一日中遊んでもらい最上の温泉街に泊まってもらうにはどうするかということです。そのためNPOを作り、観光協会と連携して会員増強をはかることを考えています。いろんな人や団体がバラバラに努力するのではなく、一体化して観光客誘致にあたるべきです。

佐藤

去年スタートした街道事業では、たとえば有壁宿・肘曲坂のように、市がお金を出したわけではなく、地域の方が自分たちで草を刈るなどして道を作り直してくれるなど、地域の方が目覚めて一緒にやれるような事業になってきました。これからの時代は、何万人もの観光客にきてもらう必要はなく、栗原に行けばわからなかったことがわかるとか、自然に触れて懐かしい故郷が思い出されるとか、そういう思いにさせることのできることをやっていけば自然と活気が出てくると思います。麦屋さんには「最後はもてなしの心だ」ということをアドバイスされていました。



栗原市民ひとりひとりがそういうもてなしの思いをもって、お客様を大切にする精神を磨き上げていくことが今後でもできればいいと思います。

#### 吉村

私どもは食の部分でいうと、観光客、親戚にかかわらず、遠来の客をもてなすには餅と蕎麦のご馳走です。蕎麦生産組合を組織し村中の人に蕎麦を蒔いて貰い、その蕎麦を刈り取って、村の食堂の蕎麦やおみやげ品の蕎麦粉にするなど地産地消に取り組んでいます。また、私は屋根葺き職人がいないと大内宿の保存はできないと考え、町の屋根葺き職人に弟子入りました。しかし、それだけでは生活できないので蕎麦屋も始め、ある時は茨城県石岡市と大内宿を片道4時間かけて行き来し、昼は屋根葺き、夜中は蕎麦打ちと全力で取り組んできました。その情熱が大内の若い人たちに通じ、屋根葺き技術習得のための屋根葺き練習場を作り毎週練習したり、大内宿の保存やおみやげになる地場産品の開発等についても議論を交わすようになっていきます。

#### 山口

観光客を誘致するために、全体の情報を集めて全国に宣伝して集客するわけですが、そうした活動をする組織を維持するのに費用がかかります。現在の状況では儲けが少なく、実施者も事務局も旅館も潤う高付加価値商品、お客さんが一日3~5万円払うような商品を開発することが必要です。そのためには馬産業を復活させたらどうかと考え、先日、馬で最上から鬼首、鳴子を通って平泉まで行ってきました。行く先々でたくさんの人に感動してもらいました。東北には最上だけじゃなく馬市場が何か所かあり、馬の道もいろいろありました。そうした地域を結んで馬で旅行する企画を立てることができればいいですね。

#### 吉村

山口さんの言う馬の替わりに、なくなった年中行事を復活させて地域の人がつながっていくようにしているのが私たちの取組です。旧暦の端午の節句に行われていた、窓から邪気が入ってくるのを防ぐ菖蒲挿し。あるいは12歳の子どもの12月12日に「火の用心」と書くことと火事にならないという火伏せ行事の札を村中に配るなどの行事を復活させています。このように自分たちの生活が観光のステージになるようもつと深く追求して行きたいと思っています。

#### 大村

人・自然・地域文化の3つのストックをどれほど持っているかが、地域ツーリズムを推進する地域力につながります。岩手県田野畑村はリアス式海岸を見下ろすだけで、ほかに移動してしまうという通過型の観光地でした。しかし、小船に乗って岩穴をくぐったり大岸壁を見上げたりするサップ船クルーズを始めてからは、たくさんのお客さんが訪れるようになりました。地域にある立派な資源・足元の宝をしっかりと見つめ直して活かす。それを活かす人材を育てることが大事です。

#### 宮原

東北は生活文化に根ざした地域資源が豊かで、少し掘り起こしただけで本物がたくさんできます。そうしたものを、付加価値の高い観光交流プログラムにするかが問題で、それを成功させるには、地域の人たちがそのプログラムづくりに積極的に参加し、協力してやっていけるのかにかかっています。それができれば、住んでいる人にとっても、よその人にとってもすばらしい土地になります。高い価値をうみだす交流のあり方、心に残り人の生き方も変えるような観光交流のあり方を、東北全体で創り出せたらいいなと思います。



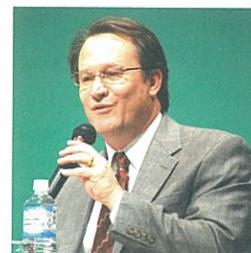
宮原 育子 氏



佐藤 勇 氏



吉村 徳男 氏



山口 ステファン 氏



大村 宏平 氏



## 第2分科会

# 街道歩きの楽しさ

街道歩きが静かなブームになっています。ここでは街道歩きの達人たちから、東北の街道のすばらしさ、街道を歩く人や迎え入れる人へのアドバイス、東北の街道の問題点などを話し合っていました。歩く人、バックからフォローする人、受け入れる地元の人、それぞれが快く感じる東北の街道歩きを考えてみました。



### 鑑 啓記・羽州街道交流会代表幹事

最近街道歩きが盛んになっています。NHKで街道歩きが放送され、各地で街道探訪会が盛んに開催され、一人で歩く人も増えるなど街道歩きが定着してきたと私は感じています。

今日は全国の街道をはじめ奥州街道を歩いた長井さん、羽州街道を歩いた三好さん、街道歩きの会を主催する藤原さんのお三方と、心行くまで街道の話をしてみたいと考えています。まず街道を歩くようになったきっかけをお話してください。

#### 三好薔薇・街道歩き人

私が街道を歩き始めたのは去年の1月ころからで、五街道というものがあることを知ったのもその前年でした。街道歩きをする前は「日本百名山」登山や、東京にある14河川の源流から河口までを歩いたりしていました。

街道を知ったきっかけは会社のOB会で、友人から話を聞いて興味を覚えたことです。奥州街道は昨年秋に仙台まで一人で、仙台から三厩までは今年の春に長井さんと歩き、羽州街道は6月に全行程を歩き終えました。

#### 長井克成・歩人(あるきんど)

私は四国のお遍路道から歩き始めました。そのときは女房も一緒です。その後、会社を引退しましたが、無趣味人間でしたので何をすべきか悩みました。お遍路道の残りを歩き終え、それから日本縦断をしようと決意し、北海道から歩き始めました。北海道はただ国道を歩くだけだったので充足感がなく、このまま全国を歩いても物足りないあとを考えていたとき、テレビで街道歩きを知り、これだ！街道だと思ったわけです。

ホームページに「シングルおやじの気ままな一人旅」を連載しています。ただ歩くだけではなく史跡や文化財の写真を撮って、ネットに掲載するようになり街道歩きの幅が広がりました。

#### 藤原優太郎・とうほく街道会議副会長

僕は高校時代から山登りをやっていました。岩登りとか冬山とか非常に厳しい山を登り、ヒマラヤまで遠征していました。それが40歳近くになってから、少し疲れたかな、今度は少し違った山歩きがないかなと思い峠を歩き始めました。地図を広げ、昔の道を探し出すことから始めました。

峠の道はやがて街道につながるわけで、旧街道と旧峠をつなぎながら自分のトレースしたものをまとめ、『秋田の峠歩き』『秋田の山歩き』という本にまとめました。

#### 鑑

皆さん、東北の街道を歩きながらさまざまな触れあいがあったと思います。街道を歩き、街道を取材して、東北の街道に対して思ったことをお話しください。

#### 三好

街道を歩く前に綿密な調査をします。地元の市町村役場に問い合わせ、本当にこの区間は歩けるのかなど教を請うのですが、東北の皆さんは親切です。道が分からなくて聞いても親切に教え

てくれます。また、東北の街道には一里塚などの遺構がたくさん残っています。説明看板もしっかりしていて、地域の方が大事にしていることが伝わってきます。

#### 長井

街道を歩いて、三つの喜びを感じてきました。ひとつは見知らぬ土地を歩くということ。交通機関を使った旅というのは「点」ですが、街道を歩く旅はその沿線の「点」が「線」で結ばれていくので印象に残るんですね。

2点目は地元の方とのふれあいがあることです。たとえば四国のお遍路道では、お接待という文化が根づいていますし、奥州街道では本当に深いお付き合いがありました。二戸で大変な美人の奥さんが農作業をしていて、親切に道を教えてくださったことも印象的です。3点目はやはり達成感ですね。特に奥州街道の場合、ゴールが演歌にも歌われた竜飛崎でしたので感激がひとしおでした。

#### 藤原

いま美人の話がありましたけれども、私も負けないような経験があります。秋田県内の峠を冬に歩いたとき、山の中の小さな温泉宿に泊まったんです。すると泉鏡花の『高野聖』を思い起こさせるようなきれいな女将さんがいて、ちょっとぞっとした記憶があります。

峠歩きの話ですが、峠を歩くときなにかテーマを決めるようにしています。ここはだれそれが難儀して越えた道だとかイメージし、事前調査をしてストーリーを自分なりに作ります。すると一人で山道を越えても、その人と会話しながら歩いている気分になります。慣れてくればそういう峠歩きもできるようになります。

#### 鑑

みなさん、東北の街道をさまざま歩いたなかで、いろいろ問題点もあったと思います。その点についてご意見や改善案などありましたらお願いします。

#### 三好

旧道や峠の入り口が分からないことが何度かありました。奥州街道でも羽州街道でも道しるべがもう少し欲しいですね。たとえば羽州街道の金山町にある上台峠入り口や矢立峠ですね。あと七ヶ宿ダム底に沈んでしまった羽州街道の代わりに、ダムサイトの道を楽しく歩かせてもらえる工夫がほしいです。

それから特に羽州街道の峠ですが、草に覆われる夏は大変で、時期を選ばなければなりません。街道地図を地域の団体が作ってくださるのはありがたいのですが、自分の地域以外はフォローがありません。行政や担当地区を越えた地図作成、地域を越えたアドバイスをしていただければ助かります。

#### 長井

私も情報の一元管理を望みます。それから街道で道が分からなくて聞いた場合、若い方はほとんど知りません。これはある面、文化の継承ができていないのではないのでしょうか。

私は簡易な道しるべを奥州街道にずっと立てたいと思っています。それを実行するには、標識を作るお金と、それらを設置する労



左から  
藤原優太郎氏  
三好 薔薇氏  
長井 克成氏  
鏡 啓記氏

力が必要です。おこがましいのですが、今回大変お世話になったので、標識は私のほうで寄贈させていただきますが、設置は皆さんでしていただけないでしょうか。「地図がなくても奥州街道を歩けます」という、奥州街道のキャッチフレーズを実現できないかと思っ  
て提案させていただきました。

#### 藤原

地図にしても標識にしても統一をとるのは理想的で、実現できれば素晴らしいことです。大事なことは旧街道の社会的認知度を上げる努力で、長井さんがおっしゃったように、小中高生のうちから自分たちの郷土の誇りとして街道のことを教えれば、世代ごとにつながると思います。そういう広報や教育をきちんとやるシステムが必要  
です。

#### 鏡

長井さんからのうれしいお話、奥州街道に道しるべを設置するご提案に応じて、東北で街道活動を行っている我々がその実現に向けた動きをしなければなりません。これをやり遂げることができれば、奥州街道も、ほかの街道も次のステップに進むと思  
います。

#### 会場からの発言1

私は奥州街道や松前街道を歩いています。道案内などで地元の人にお世話になることがありましたら、必ず後から手紙で御礼をしてほしいと思っ  
ています。

#### 会場からの発言2

先日六十里越街道を歩いてきたのですが、旧道の入り口が分からず苦勞しました。地元の方は常識として分かっているんでしょ  
うが、もっと標識を増やしてほしいものです。

#### 会場からの発言3 志田靖彦

六十里越街道の維持保存をボランティア活動でしています。標

高1200メートルの峠があって、その区間は有料ガイドを頼まない  
と歩けないようにしようというアイデアがあります。その考え方に対し  
て皆さんのご意見を聞きたいのですが。

#### 長井

私は賛成です。問題はどのようにって、有料ガイド情報を発信する  
かだと思います。

#### 三好

有料の地元のボランティアガイドさんに頼むと、歴史から実際の  
歩き方まで、きめ細かく教えてくれます。そうして歩くとパンフレット  
を見る以上に街道の内容がわかります。

#### 鏡

有料ガイドは私も賛成です。有料のガイドをお願いすることによっ  
て、地元の方から生の声が聞けます。ガイドの皆さんは歴史などの  
勉強をして欲しいと思っ  
ます。

このように東北には奥州街道、羽州街道をはじめとした魅力的  
な街道がいくつもあります。とうほく街道会議として、街道をひとつ  
ひとつきっちり調べて、ホームページなどで情報提供し、東北の街  
道歩きは日本で最も素晴らしいといっ  
ていただけるよう、さまざまな  
方向から取り組みをしていきたいと思っ  
ています。





## 「東北の街道」パネル展

会場では、東北各地の街道や街道団体を紹介するパネル展を開催しました。奥州街道、羽州街道、六十里越街道、十三峠、ふくしまけん街道交流会、イザベラ・バード、日本風景街道、このほかにも多数のパネルが展示され、多くの大会参加者が熱心に見入っていました。



# 街道談義

## 「ごっつお十八番」/県庁18F



## 街道談義

宮城県庁18階にある“みやぎ食めぐり厨房「ごっつお十八番」”を会場にして街道談義を開催しました。宮城（とくに栗原）の食材を中心とした料理と、宮城県内の地酒や参加者が持ち寄った東北各地の地酒を手に、街道談義に花を咲かせました。

# 街道探訪会A 芭蕉の『おくの細道』コース(多賀城～塩竈～松島)



① 多賀城碑覆堂



② 多賀城碑



③ 多賀城政庁跡



④ 磯山あかり太鼓



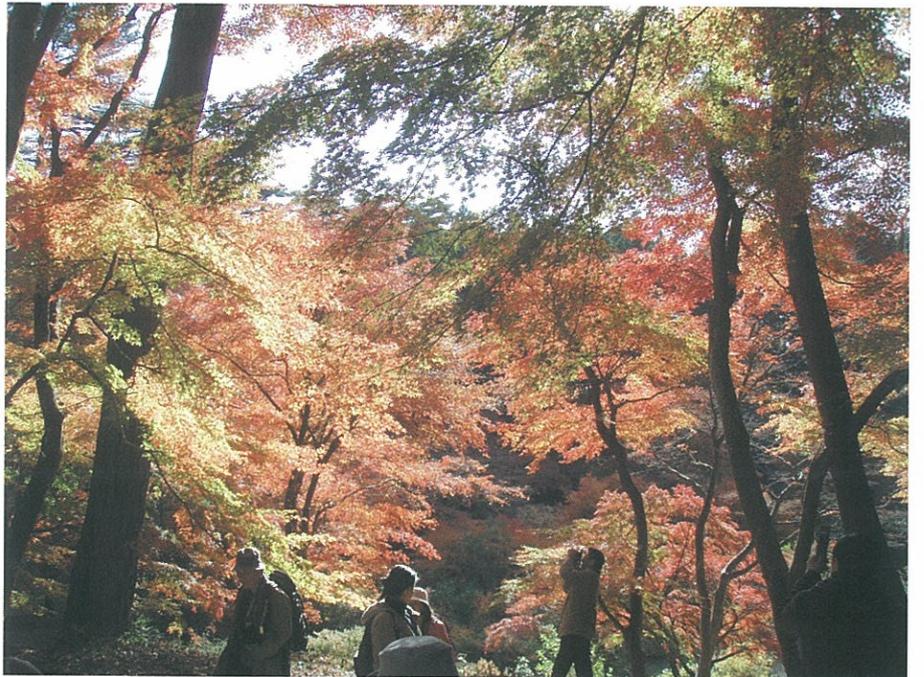
⑤ 御釜神社



⑥ 塩竈神社最古の参道・七曲坂



⑦ 亀井邸



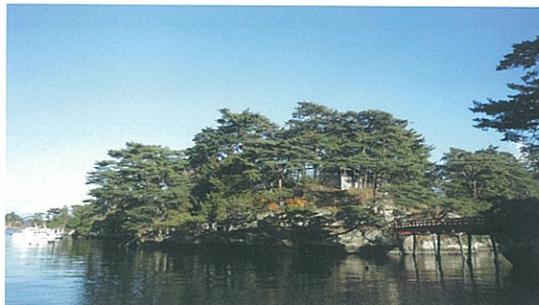
⑨ 松島四大観・扇谷の紅葉



⑧ 塩竈神社



⑩ 昼食のマグロ丼と塩竈汁



⑪ 雄島



⑫ 頼賢の碑  
特別御開扉

# 街道探訪会B

## 仙台市内の奥州街道コース(河原町～芭蕉の辻)



① 河原町を通る奥州街道



② 小林薬局(南材木町)



③ 針惣旅館(南材木町)



④ 七郷堀(舟町)



⑤ 仙台駄菓子の石橋屋(舟町)



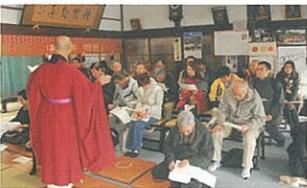
⑥ 仙台筆筒伝承館<門間筆筒店>(南鍛冶町)



⑦ 旧藩校・養賢堂の正門(奉心院山門)(南鍛冶町)



⑧ 毘沙門堂(荒町)



⑨ 晶伝庵でのお説教(荒町)



⑩ 野中神社(南町)



⑪ 森重旅館(田町)



⑫ 柳町大日堂(柳町)



⑬ 芭蕉の辻(大町)

■主催 とうほく街道会議 第4回交流会 仙台・宮城大会実行委員会

とうほく街道会議 みやぎ街道交流会 NPO法人奥州街道会議 羽州街道交流会 みちのく街道研究会 みちのく歴史街道研究会友の会  
(社)宮城県観光連盟 宮城県商工会議所連合会 (財)仙台市観光コンベンション協会 宮城県 仙台市  
オブザーバー:(社)東北経済連合会 東北地方整備局 東北運輸局

■主管 みやぎ街道交流会

■後援 多賀城市史跡案内サークル NPO法人みなとしほがま おくの細道松島海道 まち遺産ネット仙台 ふくしまけん街道交流会 いわて街道交流会  
あおりかいどう会議 くりはら街道会議 三宿地域連携協議会 出羽の古道六十里越街道会議 越後米沢街道・十三峠交流会  
NPO法人全国街道交流会 河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 NHK仙台放送局 TBC東北放送 仙台放送  
ミヤギテレビ KHB東日本放送 東日本高速道路株式会社東北支社 多賀城市 塩釜市 松島町 宮城大学地域連携センター

■協賛 (社)東北建設協会 ふくしまけん街道交流会

■助成 (財)カメイ社会教育振興財団(仙台市)